

# 日銀の視点

茨城県外の人に水戸の観光地を訪ねると、借楽園と弘道館を思い付く人が多いだろう。自分もその一人であったが、夏に水戸に住み始めてから、市内には他にも歴史的な名所が多々あることを知ることになった。

手始めに、駅の観光案内所で入手したパンフレットを頼りに、光園公が愛したという保和苑とその周辺の歴史地区を訪ねてみた。古都のようなノスタルジックな雰囲気を感じ出しており、とても印象深い場所だ。途中道に迷った結果、詩人、山村暮鳥の墓と歌

## 稲見 征史

日銀水戸事務所長

碑にも参ることができ、その裏手の細い林道を下って保和苑に到着することになったが、県庁所在地の都市とは思えないほど静寂と木々に包まれ、散策が一層味わい深いものになった。苑内の有名なアジサイは満開を過ぎていた

用すれば、駅前で弘道館を見ただ後、借楽園や保和苑にも簡単にたどり着けることが分かった。観光にとっても便利で、「点」と「点」をつないで名所を巡ることができ、水戸の旅のスケールが「面」となっ

て益してくることは間違いな

店本館（重要文化財）の向かいにあるビルに所在している。日本の古代から現代までの貨幣とそれに関連する資料を展示し、歴史に沿って解説している。江戸時代の金貨や明治時代に初めて発行された日本銀行券など、各種の展示を通して、何が

# 点でつなぐ旅の楽しみ

が、それでも美しい花々を存分に楽しむことができた。

市内に点在しているこれらの名所に水戸駅からどのような

「お金」として選ばれ、どのように使われてきたかといった、貨幣の役割や変遷を理解できる。

次回、金融資料館は、1912年に竣工した辰野金吾らの設計による旧小樽支店の歴史的建造物を利用した施設で、日本銀行の歴史と業務、

究所貨幣博物館（東京都中央区）、もう一つが「旧小樽支店金融資料館」（北海道小樽市）だ。

貨幣博物館は、日本銀行本

商都小樽の発展に関する展示を行っている。いずれの施設

も多くの方に楽しんでいただけるよう、分かりやすい説明に努めている。

（次回は10月12日）